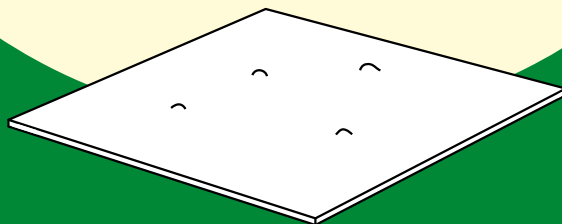


古紙に混ぜないでください 感熱性発泡紙

紙の原料の約61%は古紙を利用しています。古紙をきちんと「分別」し「きん き ひん禁忌品」を混ぜないこと。それがリサイクルには大切です。感熱性発泡紙（立体コピー紙）も、そのきん き ひん禁忌品のひとつ。この紙が古紙に混じると、製紙原料として利用できなくなってしまいます。

感熱性発泡紙が古紙に混じると、
こんな紙に……

熱で膨らむ性質をもつ感熱性発泡紙が古紙に混じると、再生する工程で紙の表面にたくさんの小さな凹凸をつくります。このような紙は商品として販売できなくなってしまいます。



凹凸ができた紙の表面

お願い

集められた古紙の中から感熱性発泡紙を選別することは不可能です。
感熱性発泡紙を手にした皆さまのご協力が、ぜひとも必要なのです。

感熱性発泡紙を絶対に古紙に混ぜないでください。



財団法人 古紙再生促進センター

〒104 東京都中央区入船 3-10-9 新富町ビル TEL. 03 (3537) 6822